



豊橋まちなか会議の発足について、設立の趣旨を説明する  
神野吾郎会長（中央）＝ホテルアークリッシュ豊橋で

## 「豊橋まちなか会議」設立

### 民間主導で駅前周辺の活性化を

#### 年内に将来像の取りまとめへ

民間主導で豊橋駅前周辺エリアを活性化させ、魅力あるまちづくり構想を実現させるため、「豊橋まちなか会議」が設立した。25日、豊橋市駅前大通1のホテルアークリッシュ豊橋であった設立総会で、駅前周辺エリアの将来像のビジョン策定を年内に取りまとめる見通しであると報告した。

総会には市内企業の代表者のほか、大学関係者、地域自治会らが出席。設立の決議に加えて規約制定、役員を選任、今年度の事業計画と収支予算について決めた。会長には神野吾郎氏（サーコーポレーション社長）、副会長には小林宏之氏（総合開発機構社長）と黒野有一郎氏（豊橋駅前大通地区まちなみデザイン会議常務理事）が選任された。

会議のなかで、総会の年1回実施、理事会を年4回を開き、事務局会議か企画会議を年12回行うことなどを確認した。

設立にあたって神野会長は「まちなか（豊橋駅前周辺エリア）が地域の人々の「ハレの間」として、当地に関わる人々が共通の時間を過ごす空間になれば」と期待を込めた。

（坂勇人）